

# < 実践事例 江東区立第三大島小学校 >

## 1. 取組・活動名

「豊かな国際感覚の醸成・世界中みんな友達（インドネシア）」

## 2. 取組・活動のねらい

- 外国の人々や文化を大切にできる心を持ち、日本人としての自覚をもって、世界の人々との親善に努めようとする態度を養う。
- 我国と他国（インドネシア）の違いを乗り越え、他者を尊重し、平和を愛し、共に生きることのできる公正な社会作りに参加しようとする態度を育てる。
- 日本の伝統・文化に直接触れる機会をもつことで、そのよさを実感するとともに、長きにわたり継承されてきた素晴らしい文化を誇りに思う態度を育成する。

## 3. 教育課程上の教科名・時数

「総合的な学習の時間・10時間」

## 4. 実施上の工夫

- ・世界の国々との交流が、児童の発達段階や実態に即した内容になるように、事前に交流内容を綿密に打ち合わせる。
- ・体育的行事（運動会）と関連させ表現運動で学習した「花笠音頭」を、日本文化の紹介として交流活動に入れる。
- ・実のある交流になるよう、インドネシアに関する興味関心のある分野について、事前に調べ学習を行わせる。
- ・学習を振り返る活動を行うことで、今後も世界に目を向け、多様な民族や国々の文化を理解しようとする心を育てる。

## 5. 本取組・活動の内容



### 「インドネシアについて学ぼう」

- ・交流会開催のあいさつのあと、インドネシア大使館の方々から、インドネシアの位置や国旗、日本からの距離、市内の様子、服装、教育、食べ物などについて、プレゼンテーションをもとにしたお話を聞いた。
- ・音楽文化の学習では、インドネシアの民族楽器「アングルン」の演奏の仕方を教わり、3年生児童全員で「きらきら星」の演奏を楽しんだ。



### 「日本の文化を伝えよう」

- ・インドネシアの文化を学んだあとには、日本の伝統文化の紹介をした。グループごとに、お手玉や歌などを披露した後、運動会の表現運動で学んだ日本の民舞「花笠音頭」を全員で踊り、インドネシア大使館の人々の目を楽しませた。
- ・インドネシアの方々からは「大変素晴らしい踊りでした。」と、お誉めの言葉をいただいた。



### 「日本とインドネシアとの違いについて考えよう」

- ・インドネシアについて学んだことをもとに、日本の文化との違いについて、考えたことや感想をまとめた。
- ・子供たちからは、「日本と違うところがたくさんあったけれど、よいところがたくさんあった」、「これからももっと世界の人となかよくなりたいたい」など、今後も積極的に世界の人とつながろうとする意欲や世界への関心の高まりが見られた。

## 6. 成果

- ・他国と日本の文化の違いを知り、一緒に活動することを通して、互いの国のよさに気づき、互いを理解しようとする国際理解意識の素地を養うことができた。
- ・他国の人との交流の中で、日本の文化を紹介する取組や、会話をする活動を通して、児童が自分に自信を持ち、おもてなしの心の醸成につながった。
- ・日本の伝統文化に触れる機会をもつことで、子供たちなりに自分の国の文化について見つめ直し、日本人としての自覚と誇りをもつことができた。
- ・2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、様々な国の人々と交流したいという意欲や関心を高めることができた。